

Japanese Patent Application Laid-Open No. 109638/1984

(JP-59-109638A)

Claims

- 5 A method for subjecting an under floor to an insect control and dehumidification treatment, which comprises mixing a material capable of solidifying at a room temperature and an insecticide in a liquid, and sprinkling the mixture on a soil level of the under floor to form a
- 10 coating layer from the material on the soil level and allow the insecticide to remain in the soil.

⑬ 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—109638

⑤ Int. Cl.³
E 04 B 1/72
A 01 M 7/00

識別記号

庁内整理番号
7904—2E
6804—2B

④ 公開 昭和59年(1984) 6 月 25 日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑤ 床下の防虫防湿処理方法

16号

② 特 願 昭57—219996

② 出 願 昭57(1982)12月14日

② 発 明 者 黒澤聡樹

東京都世田谷区松原 1 丁目 29 番

① 出 願 人 イカリ消毒株式会社
東京都新宿区新宿 3 丁目 23 番 7
号

④ 代 理 人 弁理士 中川国男

明 細 書

1. 発明の名称 床下の防虫防湿処理方法

2. 特許請求の範囲

常温で固化可能な材料および防虫剤を液中に混合し、この混合液を床下の土表に散布して、土表面に上記材料により被覆層を形成し、かつ土中に上記防虫剤を残留させることを特徴とする床下の

3. 防虫防湿処理方法。

発明の詳細な説明

本発明は、床下に防虫および防湿処理を施すための方法に関する。

防虫剤例えば防蟻剤は、通常、ブラシなどによる塗布またはスプレー散布によって行われている。このスプレー散布では、作業性が良く、また障害物の背面への薬剤散布が可能となるが、防蟻剤が土の表面などに十分に浸透せず、残留性の点で問題がある。

一方、防蟻剤を含浸させた塩化ビニルシートなどが市販されている。このシートでは、床下での完全な敷き詰めが困難であることから、作業性の

点で問題であるが、防蟻剤の蒸散が有効に防止でき、また防湿および断熱作用が得られる点で有利である。

このように従来の防虫および防湿方法では、一長一短があり、その解決が望まれている。

したがって本発明の目的は、薬剤散布の特長と防虫防湿シートの特長とを兼ね備えた防虫防湿方法を提供することである。

上記目的のもとに、本発明は、水などの溶液中に、常温で固化可能な材料および防虫剤を混合し、この混合液を床下の土表面や基礎部材に霧化状態として散布し、それらの表面に上記材料により防湿および断熱用の被覆層を形成し、かつ土中などに上記防虫剤を浸透させて残留させ、その蒸散を防止し、その薬効を長期にわたって持続するようにしている。

以下、本発明の方法を図に示す一実施例にもとづいて具体的に説明する。

本発明の防虫防湿処理方法では、噴霧可能な溶媒として混合液 1 が用いられる。混合液 1 は、例

例えば水などであり、水溶性の樹脂などの材料2と防虫剤3とを含んでいる。この材料2は、常温で固化可能な樹脂材料例えば酢酸ビニルエマルジョンなどであり、また防虫剤3は、主として防蟻剤例えばクロルデンで、乳剤もしくは油剤または果粒剤として用いられる。

上記混合液1は、容器4の内部に収容され、スプレーガン5に装着される。このスプレーガン5は、圧力源6から圧力空気7を取り入れて、混合液1を霧化状態で床下に向けて噴射する。

このようにして、混合液1は、霧状となって床下の土表面をはじめ、基礎、くつ石、つか石および土台などの表面に付着する。混合液1の液体成分つまり水分は、土表面から内部に浸透するが、防虫剤3は、乳状となって、土中に残留する。また常温で固化可能な材料2は、床下土表上にすきまなく付着し、厚み5ないし10mm程度の被覆層2aを形成し、その下部で土や砂利を抱き込んで、あたかもアスファルトのように、土表面を固める。この被覆層2aは、床下土表面に敷き結め

られた状態で、完全に被覆し、床下面で防湿および断熱作用を営む。またこの被覆層2aは、防虫剤3の空中への蒸散を阻止するから、防虫剤3の土中での残留効果は、長期にわたって得られる。

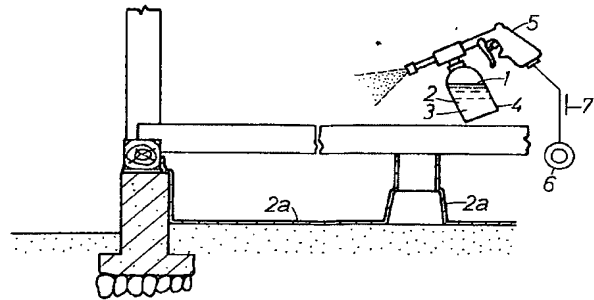
なお、上記防虫剤3が果粒状であると、噴霧時に、この防虫剤3は、材料2とともに、土の表面に残留し、土表面での防虫効果を高める。また材料2が着色されておれば、床下面の処理範囲が容易に確認できるから、噴霧作業が無駄なく、かつ能率的に行なえる。また材料2は、油性の樹脂であってもよい。油性の樹脂の場合に、液体は、シンナーなどの溶媒を用いる。また樹脂が固化状態のときに、多孔質であると、被覆層2aが適度の吸湿性をもち、湿度に対し一種の呼吸作用をするから、土中の水分の蒸発は、その多孔質の被覆層2aによって、適度に制御される。さらに混合液1には、必要に応じて防蟻剤のほか、他の有害虫や不快害虫に対する駆除剤を混合してもよく、また速乾性付与のために、適量の石灰やセメントを混入することも考えられる。

本発明では、常温で固化可能な材料および防虫剤が混合液となって霧状に撒布されるから、混合液が直接被処理面に撒布でき、かつ障害物の背面や亀裂部分の内部への付着も可能となり、またその材料が土表面などの基礎部分に被覆層を形成するから、床下での適当な防湿および断熱作用が得られ、またこの被覆層が土表面を被覆して防虫剤の空气中への自由な蒸散を阻止するから、被処理部での防虫剤の残留効果が高く、したがって長期間にわたって防虫作用が得られる。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明の床下の防虫防湿処理方法の説明図である。

1・・・混合液、2・・・常温で固化可能な材料、
2a・・・被覆層、3・・・防虫剤、4・・・容器、5
・・・スプレーガン、6・・・圧力源、7・・・圧力空



特許出願人 イカリ消毒株式会社
代理人 弁理士 中川 國男